

家庭総合

総合学科

教科	家庭	単位数	2単位	対象	1年次	選択群				
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)			副教材等	家庭科ノート		履修	必修・選択		
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路			
人の一生と家族・家庭・子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てます。				<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通して生活を設計し、創造する力や、様々な人とつながり、共に生きる力、生涯を通して健康で文化的な生活をつくり、営む力を身に付ける。 生活課題を見つけ、自ら解決する力を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> 1年次生全員が履修します。 			
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容						
	4月	第1章 生涯を見通す	オリエンテーション 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる 1 人生をつくる	○ 家庭総合を学にあたって 家庭クラブ・ホームプロジェクト 1 人は生涯を通して発達する 2 青年期の課題 1 人生は意思決定の連続 2 未来予想図を描く 1 「人生100年」時代を生きる 2 一人で暮らす 3 パートナーと生きる 4 子どもと暮らす・親を支える						
	5月		第2章 人生をつくる	2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	1 家族・家庭をどう捉えるか 2 社会の中の家族・家庭 1 家族生活を担う 2 家庭生活と地域・福祉					
	6月	第8章 住生活をつくる		1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	1 住居の機能と変化 2 平面図を理解する 1 住居の防災 2 健康な住生活 3 住みやすさの工夫 1 気候風土と住居 2 伝統的な日本の住居 1 日本の住宅政策 2 持続可能な住生活					
	7月		第7章 衣生活をつくる	1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 被服を作る 5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活	1 高校生と衣生活 2 着るとは 3 被服の保健衛生的機能 4 被服の社会的機能 1 被服の入手 2 被服と表示 3 被服の材料 4 被服材料の性能 5 被服材料の性能の改善 1 被服の手入れ 2 洗剤と漂白剤の働き 3 仕上げ、保管 1 被服の構成 2 採寸とサイズ 3 被服製作の過程 ○ 被服製作実習 (エプロン製作) 1 生活文化と被服 2 繰り返し知恵 3 世界の民族衣装 1 被服の生産と消費 2 被服の再資源化 3 環境に配慮した衣生活 ○ 家庭クラブ活動					
	9月	第9章 経済生活を営む		1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活	1 消費生活と意思決定 2 よりよい意思決定のために 1 購入と契約 2 多様化する支払い方法 1 消費者の権利を生かす 2 社会とつながる消費者					
	10月			第10章 持続可能な生活を営む	1 持続可能な社会を目指して 2 一人一人の力で社会を動かす	1 家計の構造を理解する 2 家計資産のマネジメント 1 大量消費社会の限界 2 よりよい地球環境に向けて 1 毎日の生活を持続可能にする 2 資源利用の削減 3 エシカル消費の実践 4 社会的活動の実践と支援				
	11月	1月			【予習】 教科書をよく読んで理解し、専門用語はしっかりとまとめておきましょう。					
	12月			【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。						
	1月	【復習】 その日に学習した内容の重要なポイントは必ず覚え、まとめておきましょう。								
	評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
		生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。			生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。		
		評価方法	第1・2学期		第3学期		年度末			
A：知識・技能（考査・小テスト、実習） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業態度等）	A：40点 B：30点 C：30点		A：40点 B：30点 C：30点		1・2・3学期の平均					
備 考										

家庭総合

総合学科

教科	家庭	単位数	2単位	対象	2年次	選択群				
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)			副教材等	家庭科ノート		履修	必履修・選択		
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路			
男女が協力して、家庭生活を築いていく意識と責任を育みます。また、生活に必要な知識や技術を身に付けるとともに、よりよい家庭生活の創造を目指して、食生活、超高齢社会、子どもの発達や保育環境などについて学習します。				<ul style="list-style-type: none"> 科学的な理解を基に、安全でよりよい食生活について考える。 高齢者理解を深め、「人生100年」時代を豊かに生きられる社会を目指す視点で取り組む。 子どもの育つ力を理解するとともに、親や社会の一員としての関わり方を知る。 			・2年次生全員が履修します。			
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容						
	4月	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 超高齢・大衆長寿社会の到来	1 超高齢社会の現状 2 ライフステージとしての高齢期						
	5月		2 高齢期の心身の特徴	1 老化と成熟 2 高齢期の健康と自立 3 高齢期の生きがいと生活課題						
	6月	第6章 食生活をつくる	4 これからの超高齢社会	1 介護をめぐる問題 2 高齢者と共に地域をつくる ○ 介助実習						
	7月		3 高齢者の自立を支える	1 青年期の食生活の課題 2 「食べる」とは 3 食生活の課題 4 食生活の変化 ○ ホームプロジェクトについて						
	9月		2 食事と栄養・食品	○ ホームプロジェクトの発表 1 生涯の健康と食事 2 栄養と栄養素 3 炭水化物 4 資質 5 たんぱく質 6 無機質 7 ビタミン 8 その他の食品						
	10月		3 食生活の安全と衛生	1 食品の洗濯と保存 2 食生活の衛生と安全 ○ 家庭科技術検定食物調理4級への取組						
	11月		4 生涯の健康を見通した食事計画	1 栄養バランスのよい食事 2 食事計画						
	12月		5 調理の基礎	1 調理法と味のバランス 2 食事の場面を考えた調理 3 環境負荷の少ない食生活 4 持続可能な食生活を営む力 ○ 調理実習(4回程度)						
	1月		第2章 子どもと共に育つ	2 子どもの育つ力を知る	1 子どもの育つ力 2 生まれつき持っている能力 3 身体の発達 4 心の発達 5 遊びの発達					
	2月	3 親として共に育つ		1 子どもの発達と保育 2 子どもの生活と保育 3 親として育つ						
	3月	4 子どもとの触れ合いから学ぶ		1 幼い子どもとの触れ合い						
	学習方法	【予習】 日ごろからマスコミ報道にふれて社会の動きを把握するとともに、生活情報を収集しましょう。 【授業】 調理実習に際しては、不必要な私語を慎み、安全に、協力して進めましょう。 【復習】 授業で身に付けた知識や技術を日常生活の中で生かし、日々の生活の改善・充実に努めましょう。								
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	食・住生活、子どもの発達と保育などに関する基礎的・基本的な知識や技術を総合的に身に付ける。 情報や資料を各方面から積極的に収集し、役立つものを主体的に選択し、活用する。			食・住生活、子どもの発達と保育などについて見直し、生活課題を主体的に解決するための思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付ける。			食・住生活、子どもの発達と保育などについて関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付ける。			
	評価方法			第1・2学期			第3学期		年度末	
	A：知識・技能(検査・小テスト、実習) B：思考・判断・表現(検査、課題・レポート等) C：主体的に学習に取り組む態度(ノート・提出物・授業態度等)			A：40点 B：30点 C：30点			A：40点 B：30点 C：30点		1・2・3学期の平均	
備考										

消費生活

総合学科

教科	家庭	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	K②群			
使用教科書	消費生活（教育図書）			副教材等				履修	必修・ 選択	
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路			
商品研究や事例研究などの実践的・体験的な学習を通して、消費生活に関する知識と技術を身に付けます。				<ul style="list-style-type: none"> ・財・サービスの選択と意思決定、消費者の権利と責任など消費生活に関する知識と技術を習得する。 ・環境保全に配慮した消費生活に寄与する能力と態度を養う。 			履修の条件は特にありません。			
学習の年間計画	月	単元名	項目	学 習 内 容						
	4月	第1章 社会を支える消費者	第1節 消費生活の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者・消費生活の意味 ・ 消費者が経済社会で果たす役割 ・ 生涯設計 ・ 消費者問題の存在に気付く 						
	5月		第2節 生涯の計画と管理							
	6月		第3節 社会の変化と消費生活の変化							
	7月	第5章 消費者契約と法	第1節 生活の中の契約	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約とは何か ・ 契約の成立と拘束力 ・ 多様化する販売方法 ・ 問題商法 ・ クーリング・オフ制度 						
	9月		第2節 契約と責任							
	10月	第3節 複雑・多様化する販売方法と悪質商法								
	11月	第5章 消費者契約と法	第4節 消費者取引と関連法							
	12月		第5節 電子商取引と消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様化する支払い方法 ・ 消費者信用 ・ 販売信用 ・ 多重債務 ・ 安全な消費生活と消費者行政 ・ 消費生活における情報の役割 ・ 行政やマスコミが提供する情報 						
	1月	第3章 消費生活の安全と自由	第6節 多様化する支払い方法と資金調達							
	2月		第1節 消費生活の安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全な消費生活と消費者行政 ・ 消費生活における情報の役割 ・ 行政やマスコミが提供する情報 						
	3月	第3節 信頼できる情報の確保								
	学習方法	11月	第4章 消費者の自立支援	第1節 支援の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者行政の必要性 ・ 被害救済に対する支援 					
12月		第2節 地球環境問題と私たちの生活		<ul style="list-style-type: none"> ・ 被害者から加害者へ ・ 持続可能な資源消費 ・ 物質的豊かさと心の豊かさ ・ 地球温暖化のしくみ ・ 持続可能な開発の新たな枠組み ・ SDGsの概要と環境 						
1月		第3節 消費の価値観の変化と環境問題								
評価の観点・評価基準・評価方法	2月	第6章 環境と消費者	第5節 持続可能な社会への枠組み							
	3月		第7節 エシカル消費							
	学習方法		<p>【予習】 消費者や環境に関わる事項は時事問題との関わりが大きいので、日頃より情報を収集しておきましょう。</p> <p>【授業】 学習活動に積極的に取り組みましょう。</p> <p>【復習】 環境保全に配慮した生活の在り方について考え、日常生活の中で消費者として自主的・合理的に行動しましょう。</p>							
	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度					
消費者としての基礎的・基本的な知識を身に付けている。学習内容を理解し、適切な意思決定に基づいて、責任を持った行動ができる。	消費生活の課題、資源や環境等との関わりについて課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断することができる。			消費生活や資源・環境等に関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、消費者として正しい行動をしようとする意識を持ち、実践的な態度を身に付けている。						
評価方法	第1・2学期			第3学期			年度末			
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業態度等）	A：40点 B：30点 C：30点			A：40点 B：30点 C：30点			1・2・3学期の平均			
備考	・実習費の他、保育技術検定の検定料が必要です。									

保育基礎

総合学科

教科	家庭	単位数	3単位	対象	2年次	選択群	G群
使用教科書	保育基礎			副教材等		履修	必履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特、子どもの福祉や文化について理解し関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。 ・実際に乳幼児とふれあう学習など実践的な学習活動を行う。 ・周りの生徒と共同しながら主体的に学び、保育に関わる知識や技術を身につける。 			<p>・保育系短大・専門学校を目指す人は特に履修するのが望ましい。</p>	
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	1章 子どもの保育	オリエンテーション 1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育基礎を学ぶにあたって 保育技術検定について I 保育とは II 保育の意義 I 保育者の役割 II 一人ひとりに合わせた指導 I 家庭での保育 II 幼児教育・保育の場 III 子どもが育つ環境の変化と課題 			
	5月	2章 子どもの発達	1 子どもの発達の特性 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達	<ul style="list-style-type: none"> I 発達と保育 II 発達の共通性と個別性 I 発育・発達の評価 II 身体的特徴 III 生理的特徴 I 社会・情緒的な発達 II 知的発達 III 言葉の発達 ○ 保育技術検定4級の取組み・受検 			
	6月						
	7月	4章 子どもの文化	1 子どもの文化の意義と支える場 2 子どもの遊びと表現活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化祭、保育実習の準備 I 子どもの文化 II 子どもの文化を支える場 I 遊びと発達 II 遊びと表現活動 ○ 保育実習 ○ 保育技術検定3級の取組み・受検 ○ 文化祭への参加 			
	9月						
	10月						
	11月	3章 子どもの生活	1 子どもの生活と養護 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止	<ul style="list-style-type: none"> I 生活と養護 II 栄養と食事 ○ 実習(乳幼児食づくり) III 衣生活 I 子どもの生活習慣 II 基本的な生活習慣 III 社会的な生活習慣 I 子どもの健康管理 II 事故の防止と応急処置 			
	12月	5章 子どもの福祉	1 子ども観 2 子どもの福祉 3 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育技術検定1・2級の取組み I 子ども観の変遷 II 権利の主体としての子どもへ I 児童福祉 II 子どもをとりまく課題と対策 III 子どもが育つ社会環境 I 子育て支援からパートナーシップへ II 社会的擁護 III 地域の子育て支援 ○ 児童センター訪問 			
	1月						
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 日頃から新聞・ニュースを見て、子どもを取り巻く社会の変化や話題に関心を持ちましょう。</p> <p>【授業】 学習活動に積極的に取り組みましょう。</p> <p>【復習】 保育技術検定取得に向けて努力しましょう。積極的に乳幼児との触れ合いを通して実践力を養いましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めたうえで課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し想像する能力を身に付けている。		子どもの発達や保育への関心を持ち意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。		
	評価方法	第1・2学期		第3学期		年度末	
備考	A：知識・技能(検査・小テスト、実習(できばえ)等)		A：40点		A：40点		1・2・3学期の平均
	B：思考・判断・表現(検査、課題・レポート等)		B：30点		B：30点		
	C：主体的に学習に取り組む態度(ノート・提出物・授業(実習)態度等)		C：30点		C：30点		
<p>・取得できる検定試験：全国高等学校保育技術検定4・3級</p> <p>・実習費の他、保育技術検定の検定料が必要です。</p>							

ファッション造形基礎

総合学科

教科	家庭	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	N群
使用教科書	ファッション造形基礎(実教出版)			副教材等	家庭科問題集 基礎編		履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
被服構成の基礎と被服材料の種類と特徴は講義、被服の構成技法と洋服の製作と和服の製作は実習を中心として学習していく。			・被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴などに関する知識と技術を習得する。 ・被服を創造的に製作する能力と態度を身に付ける。			・履修の条件は特にありません。 ・実習中心の科目です。被服製作に興味・関心のある生徒	
学年 の 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	1章 衣服の構成	1節 人体と衣服 2節 立体構成衣服と平面構成衣服	1 人と衣服、からだの形、体型の特徴、動作と衣服 1 立体構成衣服 2 平面構成衣服			
	5月	3章 洋服の製作	1節 製作の基礎 2節 製作	1 洋服とは、布地の性質と扱い方、適切な縫い目 1 ショートパンツの製作			
	6月	4章 和服の製作	1節 製作の基礎 2節 製作	1 和服とは、和服の素材と用具、基本的な技法 1 じんべいの製作			
	7月						
	9月	2章 衣服の素材	1節 衣服素材の種類 2節 衣服素材の性能	1 素材の種類、繊維の分類、糸の種類、織物、編み物 ○ 実験 1 要求される性能、衣服素材の性能改善			
	10月	3章 衣服の製作	2節 製作	1 製作内容は生徒の技術や希望によって決定します。			
	11月						
	12月						
	1月	3章 衣服の製作	2節 製作	1 製作内容は生徒の技術や希望によって決定します。			
	2月	課題学習					
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 作業内容を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 実習中心の科目です。被服製作をしていく中であらゆる知識と技術を身に付けながら、楽しく実習しましょう。</p> <p>【復習】 時間ごとの製作進度に達していない場合、次回までの課題とします。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解する。 衣服を創造的に製作するために必要な知識を身につける。 能率的に衣服の製作を行うことができる技術を身につける。 		<ul style="list-style-type: none"> 衣服の構成・材料及び制作に関して、自分の嗜好や家族の要求との関連をみつけることができる。 衣服の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じてどのような材料・デザインなどが適当かを判断し、創意・工夫を表現することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 衣服の構成・材料・製作について関心を持ち、衣生活の充実・向上をめざして主体的に課題に取り組むことができる。 衣服を創造的に製作しようと実践している。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期		年度末	
A：知識・技能（考査、小テスト、実習の出来ばえ） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート、提出物、授業・実習態度）		A：40点 B：30点 C：30点	A：40点 B：30点 C：30点		1・2・3学期の平均		
備考	<ul style="list-style-type: none"> 挑戦できる検定試験：全国高等学校家庭科技術検定被服製作4・3・2級 教材費が別途必要です。 						

フードデザイン

総合学科

教科	家庭	単位数	3単位	対象	2年次	選択群	L群
使用教科書	フードデザイン (実教出版)			副教材等		履修	必履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>・家庭総合における学習を基礎として栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を総合的に身に付けます。また、実習を通して食事を総合的にデザインする能力と態度を養います。</p>			<p>・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けさせる。</p> <p>・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実・向上を目指し、合理的、創造的に解決する能力を養う。</p> <p>・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			<p>・食に興味・関心のある生徒・栄養士、調理師を目指して進学を希望している生徒は履修することを勧めます。</p>	
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	1章 食生活と健康	1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	1 からだをつくる栄養素としての食事 2 食生活を豊かにするものとしての食事 1 栄養摂取の変化と現状 2 生活習慣病と欠食 3 ライフスタイルの変化 4 食料自給率			
	5月	4章 調理の基本	1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	1 調理の目的 2 食べ物のおいしさ 1 非加熱操作 2 加熱操作 3 加熱調理器具 ○ 調理実験、調理実習 (1学期5回程度)			
	6月	2章 栄養素のはたらきと食事計画	1節 からだのしくみと食べ物 2節 栄養素の種類とはたらき	1 からだのしくみ 2 栄養素の役割 1 炭水化物 2 脂質 3 たんぱく質 4 ビタミン 5 ミネラル 6 水・その他の物質			
	7月		3節 消化と吸収	1 消化のしくみ			
	9月	3章 食品の特徴表示・安全	4節 食事摂取基準と食事計画 5節 ライフステージと栄養計画	1 日本人の食事摂取基準 2 食事計画 1 乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・高齢期の栄養計画			
	10月		1節 食品の特徴と性質	1 穀類 2 いも類 3 砂糖 4 豆類 5 種実類 6 野菜類 7 くだもの類 8 きのこと類 9 海藻類 10 魚介類 11 肉類 12 卵 13 牛乳・乳製品 14 油脂類 15 かんてん・ゼラチン 16 し好食品			
	11月		2節 食品の衛生と安全	1 食中毒 2 台所の衛生 3 食品添加物 ○ 調理実験、調理実習 (2学期6回程度)			
	12月						
	1月	5章 料理様式とテーブルコーディネート	1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート	1 日本料理 2 西洋料理 3 中国料理 1 テーブルコーディネートの意義 2 テーブルコーディネートの要素			
	2月	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	1 献立の種類と条件 2 テーマ設定と調理実習 (3学期3回程度)			
	3月	7章 食育	1節 食育の意義と推進活動	1 食育基本法 2 家庭や地域における食育推進活動			
学習方法	<p>【予習】 日頃から自分自身の食生活に関心をもつとともに、食に関する情報を収集しましょう。</p> <p>【授業】 食物のおいしさは味、香、色、テクスチャー、温度などにも影響します。よりおいしい調理や演出を目指しましょう。</p> <p>【復習】 家庭でも食事や調理に関心をもって生活しましょう。また、学校で学んだ多くの知識や技術を家庭でも実践してみましょう。</p>						
評価の観点・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技術を身に付けている。		食生活の現状から食生活全般に関する課題を見だし、思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。		食生活に関する諸問題に関心を持ち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。		
	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末			
評価方法	A：知識・技能 (考査・小テスト、実習(できばえ)等)		A：40点		A：40点		1・2・3学期の平均
	B：思考・判断・表現 (考査、課題・レポート等)		B：30点		B：30点		
	C：主体的に学習に取り組む態度 (ノート・提出物・授業(実習)態度等)		C：30点		C：30点		
備考	<p>・ 挑戦できる検定試験：全国高等学校家庭科技術検定食物調理3級</p> <p>・ 実習費が別途必要です。</p>						